

## 海の近代中国とモリソンパンフレット

村上 衛

(東洋文庫研究員・京都大学人文科学研究所准教授)

近代中国のアヘン貿易関連資料や海関報告書などの利用方法と研究成果を具体例として、近代の東アジア海域史の研究史におけるモリソンパンフレットの欧文文献の資料的価値と有用性について考える。

### 1. モリソンパンフレット

- 1) モリソンについて
- 2) モリソン文庫

### 2. 海の歴史と漢文史料の課題

- 1) 海域史研究隆盛の背景：世界の海域史研究，アジア交易圏論
- 2) 東アジア海域史研究の展開：日本史
- 3) 海域史研究の隆盛
- 4) 研究プロジェクトと成果
- 5) 漢文史料の問題：知識人の記述，史料の偏り，貿易統計，建前と実態
- 6) イギリス海事史研究との比較

### 3. 欧文文献の有用性（モリソンパンフレットより）

- 1) アヘン貿易船
- 2) アヘン戦争時の海難・捕虜
- 3) アヘン貿易
- 4) 『モリソンパンフレットの世界』

### 4. 欧文史料と海の近代中国

- 1) 海の近代中国を研究するには
- 2) 欧文定期刊行物
- 3) 海関報告・海関統計
- 4) 議会刊行文書（イギリスの場合）
- 5) 外交文書
- 6) イギリス外交文書

### 5. モリソンパンフレットの有用性と可能性

使用資料：

モリソンパンフレット（図3）



図3 モリソンパンフレット ((公財) 東洋文庫所蔵)



図4 モリソン蔵書票

## 科学史から見た西洋博物誌——日本との関係——

塚原 東吾

(神戸大学大学院教授)

科学史研究におけるシーボルトをはじめとする西洋博物誌（ナチュラル・ヒストリー）についての近年の成果を検証して、日本との関係を書誌学史的に考察し、科学史関連書誌の発展と歴史的意義を考える。

1. シーボルト：自然史・日本との関係、「冷凍保存された江戸時代」
  - ・近代化論，直線的な進歩史観を超えた多体的文化触変モデルへ
2. ツンベリー：リンネ主義の「使徒」
  - ・中川淳庵と桂川甫周とツンベリーの接触
  - ・「インフォーマント」との接触
  - ・『日本植物誌』
3. リンネ：「近代化」論
  - ・18世紀の「理性」（と革命の時代）
  - ・博物誌と『百科全書』，18世紀の寵児
  - ・「使徒」（西村三郎）たち
  - ・リンネによる体系化：「性」による体系，「神」の御技の希求
  - ・「視線」を問うこと。オランダ東インド会社とルンフィウス（アンボイナの貝）
  - ・ガリレオ主義の18世紀的展開
  - ・実験室科学，「微視化と比較（解剖学）」，分析（による一点突破）
4. フンボルト：フンボルト主義科学（F. キヤノン）
  - ・実験室科学とフィールド科学の「融合」
  - ・地球という「実験室」，器具・機器の利用による「数量化」革命